

中医協「第125回診療報酬基本問題小委員会」 ケアミックス病院でも基準満たせばDPC対象に

2008/11/19

中医協・診療報酬基本問題小委員会は11月19日、DPCを適用する病院について検討を行い、ケアミックス病院でもDPC対象病院となる基準を満たせば対象病院とすることを了承した。

DPC対象病院が年々拡大されていく中、2008年度対象病院と07年度準備病院は他年度の対象病院と比べると、病床規模が小さい病院の割合が高い、療養病棟を有するいわゆるケアミックス型病院も多く参加している、07年度準備病院はDPC算定病床数が少ないといった傾向があり、こうした多様な病院の参加は今後とも続くと考えられることから、急性期を担うDPCを適用する病院をどのように考えるかが論点として挙がっていた。

	DPC対象病院 (718病院)	DPC準備病院 (706病院)
1 療養病棟(障害者・特殊疾患病棟を含む)のある病院	89 (12.4%)	201 (28.5%)
2 回復期リハビリテーション病棟のある病院	111 (15.5%)	138 (19.5%)
3 精神病棟のある病院	142 (19.8%)	54 (7.6%)
4 その他(結核・緩和ケア・亜急性期等)のDPC算定病床以外の病床のある病院	270 (37.6%)	316 (44.8%)
1～4のいずれかの病棟又は病床のある病院	452 (63.0%)	476 (67.4%)

(重複計上)

同日、厚生労働省の提出したデータによると、DPC算定病床割合が小さい病院では診療している傷病や治療法の種類(算定されている診断群分類の数)は少なく、疾患によっては手術や特殊な処置等を行う患者割合が少ない傾向があったが、DPCの仕組みでは治療内容に応じて診断群分類が設定されていることからDPC算定病床割合の大きい病院で実施される手術等を伴う症例の点数設定に影響しないこと、またDPC算定病床割合と平均在院日数、救急者搬送割合、緊急入院割合、再入院率に明らかな違いはなく、11月12日のDPC評価分科会で行われたヒアリングにおいても、ケアミックス型病院のメリットを活かして急性期医療が行われている例があったことから、急性期を担う病床、病棟を対象にするという視点からケアミックス病院でも基準を満たせば対象病院として認めることを了承した。